

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震活動報告

2024年2月4日(日)

活動隊員：宮前繁、田中加苗

1. 活動日時

2024年2月4日(日)0時～24時

2. 活動場所

珠洲市立大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

避難所使用者数 37人(一時避難者あり) 23世帯

3. 石川県の被害状況(2月3日14:00現在 石川県 被害等の状況について)

人的被害 死者:240人 負傷者:1,421人

住家被害 全壊・半壊・一部損壊:49,429棟

4. 天候

曇り 最高気温 7℃ 最低気温 0℃

5. 活動の実際

7:00 起床 ホットタオル配布・健康観察

8:00 朝食(配膳・下膳)

珠洲市保健医療福祉調整本部 zoom meeting

9:30 ラジオ体操、換気

10:00 保健師・DHEATチーム(個別訪問担当)と本部チームの来訪対応

避難所体育内ステージ上の整理整頓

12:00 配膳手伝い

支援者からの炊きだし日だったため体育館避難者以外の利用あり

14:00 避難所内にキッズスペース仮設置

15:30 ラジオ体操、換気

16:00 診療(歯科受診、かかりつけ受診、PWJ巡回)の希望者への掲示物作成

17:00 珠洲市保健医療福祉調整本部 zoom meeting

18:00 夕食(配膳、下膳)

19:00 大谷小中学校本部関係者 meeting

20:00 健康観察

家の片付けで指を切った方の絆創膏交換、避難者とコミュニケーション

21:00 消灯、適宜対応

22:00 記録

6. 考察

[身体面]

- 夜間対応は特になかった。
- 心不全疑いで内服中の男性について、下腿浮腫著明のため、下腿の清拭と弾性ストッキング着用対

応（朝食前に履いて、就寝前に脱ぐ）。弾性ストッキングの効果の説明すると理解され、協力してくださる。朝食後の内服も実施したとのこと。浮腫が強いこともあり、弾性ストッキングの着用を一人で継続することは困難であると思われるため、明日以降も介入を継続する。

[心理面]

- 「1日何もしないで食べるばかりや・・・」と肩を落とす方や、「体は元気やけど、心は不調」と冗談交じりに吐露する方もいる。複数の方のお話を聞くなかで、いつ仮設住宅ができて、何人そこに住めるのか、住宅再建にいくら支援があるのかなど明確な情報がないので先が見えない、と話す方もいれば、自宅は帰ろうと思えば帰れるが夜が怖いので今はまだ帰りたくない、と話す方もおり、直面している状況やニーズが多様である。救護班のところに来て日常会話を1時間ほどしていかれ方や、自宅周辺の被害状況の写真を見せて説明してくださる方がいらっしやったりと、外部支援者とのつながりを求めている方がいることも感じられる。活動者が交代しても聞き役としての役割を変わず果たしていくことや、夜間しか滞在しないためあまり接点がなくこちらへの働きかけがない方への注意も払っていく必要がある。
- 子どものストレス軽減を目的に、キッズスペースを設置した。昼間は子ども一人だったためか利用されなかったが、夕方になり子どもが増えると、看護師や千葉県職員とおもちゃや風船で楽しそうに遊んでいた。高校生の利用もあり、ニーズにはある程度マッチしたと判断できたが、今後も子どもたちが安心安全な環境を整備していく必要がある。

[社会面]

- 昨日設置した交流スペースは、本日利用者が多かった。消防団員が新聞を読んだり、女性二人が語り合ったり、男性が一人でテレビを見たり、思い思いに過ごされていた。昼食時には外部から20名ほど入られたこともあり、交流スペースは満員になり、地域の人々に活用されていた。交流スペースだけでなくベッドサイドでも知人同士が声をかけあったり、情報交換を行っており、孤立している方はいない。引き続き、コミュニティの交流を促進できる環境への働きかけが求められる。
- 消防団員より「何もすることがないのもつらい」とお声がけ頂き、ステージ上の物品の片づけを協同で実施した。被災者でありながらも、支援職として役割を發揮したい心強さがあることが窺われた。さらには、学生の方々より自発的に「一緒にやります」と声をかけていただき、みんなで声をかけ合い、協力しながら整理整頓作業を実施できた。避難者が持つ力を、無理なく發揮していただけるよう関わりを継続しながら、社会活動の維持、促進に働きかけていく必要がある。

[衛生面・生活面]

- 夜間巡回時、咳嗽している方はおらず、日中に実施した床の水拭き清掃が効果的だったと思われる。今後も日中に一度は床の清掃を実施継続していく。合わせて、生活環境内の物資整備を進めながら、これまで手が届かなかった場所の清掃も進めていくことで、より清潔な居住環境の整備をはかり、二次的な健康障害の予防を図る必要がある。
- 避難者の方とお話ししているなかで、“洗濯機が使える環境”が現在最もニーズが高いものであると思われた。夕方の避難所内ミーティングでも議題にあげ、洗濯機の持ち込みや干場のスペース確保などを明日から進めていくことになった。

[環境整備]

- 避難所体育館のステージ上が大型の物品で埋まっていたため、不要になった段ボールベッドを解体のうえ、布団・座布団類を整頓した。明日から学校が本格的に再開する見通しであり、部屋やトイレ

レなどについて、児童利用場所と避難者利用場所の境界の明確化を支援していく必要がある。まずは児童利用場所を占有している支援物資類を空いたステージ上に移動することなどを検討していく。

写真. 食事の際に賑わう交流スペース



写真. 子どもたちの笑顔が見られたキッズスペース

